

通し番号	4 2 8 0
------	---------

分類番号	18-7B-22-22
------	-------------

(成果情報名) 平成17年え付け国産採卵鶏の組合せ検定
<p>[要約]</p> <p>優良な国産鶏を作出するため、外国鶏(ボリスブラウン)を対照区として、系統間交雑種であるYA×LA、XS×YA、MB×YALA、MK×YALA、EC×YALAの5つの組合せの国産鶏について能力検定を実施した。産卵率等の生産性では、国産鶏のうちYA×LAは外国鶏に近い良好な成績であったが、その他は外国鶏より劣っており、国産鶏のさらなる改良が望まれる。また、卵質では、検査の項目によっては外国鶏より優れている国産鶏もあり、より一層の改良により直接販売などではメリットがでてくると思われた。</p>
(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

現在、国内で飼養されている採卵鶏のほとんどが海外で作出されており、食料の安定供給の観点から、平成17年に策定された家畜改良増殖目標のなかで国産鶏の改良増殖が重要な課題となっている。系統を保有しない本県だけで採卵鶏の改良は難しいことから、組合せ検定を通して、(独)家畜改良センターや他県と連携することで高能力な国産鶏の実用鶏の改良が可能となる。

[成果の内容・特徴]

- 1 産卵率は、対照区、2区が高く、3区、6区が低く、80週齢までの推移でも対照区、2区が高値で推移した。(図1)
- 2 日産卵量は、対照区と2区が50g以上と大きかった。飼料要求率も、対照区と2区が優れていた。(表1)
- 3 卵質は、ハウユニットでは5区が高く、3、4区が低かった。卵殻厚は、5、6区が厚く、3区が薄かった。卵殻重比は、5区が大きく、3、4区が小さかった。(表1)

[成果の活用面・留意点]

- 1 外国鶏と生産性及び卵質の比較をしながら国産鶏の能力向上を行っていく。
- 2 本県に適した系統の組合せを確立していく。

[具体的データ]

表 1 成鶏期の成績(20～72週齢)

項 目	1 区 ホリ (対 照 区)	2 区 YA × LA	3 区 XS × YA	4 区 MB × YALA	5 区 MK × YALA	6 区 EC × YALA
飼料摂取量 (g)	103.4	105.1	106.4	105.8	107.6	105.9
産卵率 (%)	86.1 ^c	83.5 ^{bc}	79.3 ^a	80.3 ^b	80.4 ^b	76.8 ^a
平均卵重 (g)	61.5	60.9	59.6	60.5	60.8	61.0
日産卵量 (g)	52.8 ^c	50.8 ^{bc}	47.2 ^a	48.6 ^{ab}	48.9 ^{ab}	46.8 ^a
飼料要求率	1.96 ^a	2.09 ^{ab}	2.29 ^c	2.21 ^{bc}	2.22 ^{bc}	2.29 ^c
生存率 (%)	96.8	87.5	92.7	88.5	85.4	90.6
ハウユニット	82.5 ^{ab}	82.1 ^{ab}	79.0 ^a	79.9 ^a	84.1 ^b	80.6 ^{ab}
卵殻強度 (kg/cm ²)	4.13	4.01	3.60	3.67	3.88	4.02
卵殻厚 (mm)	0.372 ^{ab}	0.371 ^{ab}	0.358 ^a	0.371 ^{ab}	0.397 ^c	0.381 ^{bc}
卵殻重 (g)	5.9 ^{bcd}	5.8 ^{bc}	5.5 ^a	5.7 ^{ab}	6.1 ^{cd}	6.0 ^d
卵殻重比	9.3 ^{ab}	9.3 ^{ab}	8.9 ^a	9.0 ^a	9.7 ^b	9.4 ^{ab}

卵質は42、54、66週齢の平均。同一項目内において異符号間に有意差あり (p < 0.05)

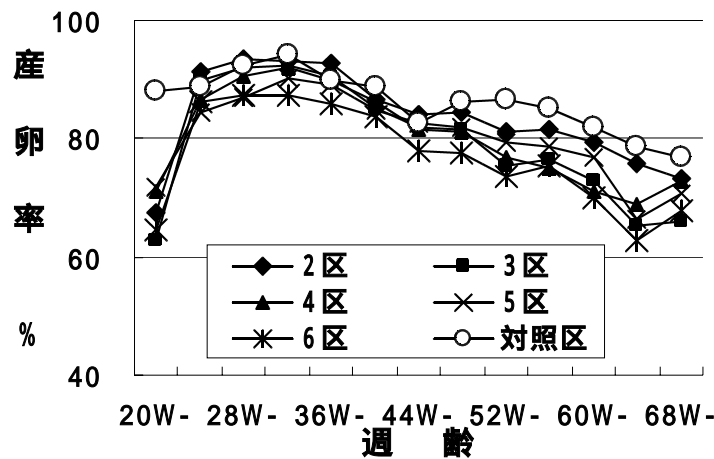


図 1 産卵率の推移

[資料名] 平成18年度試験研究成績書 (繁殖工学・養豚・養鶏)
 [研究課題名] 生産性の高い国産鶏の作出
 [研究期間] 平成17～18年度
 [研究者担当名] 平原敏史